論文要旨

Ⅰ　目的

訪問看護師による医療的ケアが必要な障害のある子ども(以下、子どもとする)の子育てを支援するために実践されている看護を理解し、訪問看護師(以下、看護師とする)が親とともに子育てをするための、訪問看護師による協働のあり方を検討するために、訪問看護師による親との協働を構造化する。

Ⅱ　研究方法

研究デザインは質的記述的研究とする。小児の訪問看護を実践している訪問看護師 15 名にインタビューガイドを用いた半構成的面接を行い、グラウデッド・セオリー・アプローチにて分析を行った。本研究は聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を受けた(承認番号：14-011)。

Ⅲ　結果

分析の結果、中核カテゴリー『子育ての自律を目指しながら子どもの障害に向き合う親とともにあゆむ』と 6 個の主要カテゴリー、16 個のカテゴリー、40 個のサブカテゴリーが抽出された。

看護師は子どもを自分で守り育てていくという親の気持ちに添いながら、訪問を拒否されず継続しながら親の心をひらいて相談される存在になることで【子育てをする仲間】になっていた。【子育てをする仲間】になることは、【子どもの障害に向きあいその親子らしく子どもを育てる親】を支えながら【親の子育ての自律】を導くための基本となる親との関係であり、親と子育てを協働するための起点になっていた。

【子育てをする仲間】になった看護師は、【子どもの障害に向きあいその親子らしく子どもを育てる親】を支えながら【子どもの特性を共有しともに体調の安定化をはかる】【親が日々の日常生活の仕方について決定することを支える】【地域で生活する自律した親と新たな関係をもつ】という、親の子育ての自律にあわせて働きかけ、【親の子育ての自律】を導いていた。

【子育てをする仲間】になり【子どもの障害に向きあいその親子らしく子どもを育てる親】を支えながら【親の子育ての自律】を導くことで『子育ての自律』を目指し、【子どもの特性を共有しともに体調の安定化をはかる】【親が日々の日常生活の仕方について決定することを支える】【地域で生活する自律した親と新たな関係をもつ】という、親の子育ての自律にあわせた働きかけをしながら『子どもの障害に向き合う親とともに』あゆんでいた。

Ⅳ　結論

看護師は、親が子育てを抱え込む状況から地域で子育てする状況に変えるため、看護師に心を開くような働きかけをして子育てする仲間になっていた。看護師自身の子育ての考えをもっていても前面に出さず、まずは親の考えを尊重するという看護師自身の考えの扱いを変化させ、親が望むことを実現するためにともに方法を考えていた。そして、あゆむペースを調節しながら親の気づきを促すような柔軟な働きかけをすることで、親の自律を導き、子育てを協働していた。親との協働により看護師はさまざまな家族の存在とその家族にあわせた看護師としてあり方の変化を認識していた。

Abstract

【Purpose】 The purpose of this study was to structuralize and conceive collaboration mechanism between visiting-nurses and parents related to child rearing of their children who were disabled and receiving medical care.

【Method】The data were obtained through semi-structured interviews of 15 visiting-nurses with children in the home-visiting nursing care service. The data were analyzed using constant-comparative analysis and categorized based on the grounded theory approach. The Research Ethics Committees of St. Luke's International University approved this study (14-011).

【Result】 The structure of collaboration between visiting-nurses and parents related to child-rearing of their disabled children receiving medical care was explained by seven categories. (1) Visiting-nurses' goal was the autonomy of parental child rearing. (2) Visiting-nurses participated in the childcare. (3) Visiting-nurses supported parent in accepted the disability and deciding the nature of the child's life. (4) Visiting-nurses led autonomy of the childcare for the parent. (5)Visiting-nurses stabilized the physical condition of the child after parent disclosed child's symptoms. (6) Visiting-nurses supported parent's decisions to carry out the medical care of the child at home. (7) Visiting-nurses made new relations with parent and disabled child.

【Conclusion】Visiting-nurses built a relationship of mutual trust with parents and commenced with collaboration with the parent. They followed the parent's idea about child's medical care, child rearing and growth and development, even if the visiting-nurse did not agree. They would discuss child rearing with a parent, and, collaboratively find the best idea. Visiting-nurses discovered new possibilities for child rearing through collaboration with parents. They recognized that parents grew psychologically in the process of caring for their child with a disability.